

令和5年4月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和5年4月4日（火）午前11時00分～11時45分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ10社 12名

会見内容

1. 話題提供（3項目）

1 新年度に向けた抱負などについて

- 令和5年度の最初の記者懇談会ですので、改めてあいさつさせていただきます。
- 4月から新たに「デジタル行政担当部長」並びに「DX（デジタルトランスフォーメーション）推進担当」を新設いたしました。市民の利便性と行政サービスのさらなる向上を目指すためデジタル技術を活用し、スマート自治体の実現に向けて進めるものです。
- あわせて、令和5年度は、デジタルの力を活用し、地域課題を解決する人材の育成を進めるとともに、カーボンニュートラル社会の実現と循環型社会の形成に向けた各取組を進めていくほか、コロナ禍後の地域の産業、経済の「回復」と「成長」を基本として、釧路の持続的な発展を目指して取り組んでまいります。
- 加えて、「災害に強く、しなやかなまちづくり」があります。津波避難困難地域の解消を目指し、複合施設の建設やさらなる津波一時避難場所の確保などをしっかり進めていきながら、最もベースとなる安全安心を構築していきながら、進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

2 「街路灯整備費補助金」及び「地区会館維持費」の拡充について

- 「街路灯整備費補助金」と「地区会館維持費」の拡充についてです。
- 町内会から要望のありました「街路灯整備費補助金」と「地区会館維持費」を拡充するものです。
- 「街路灯整備費補助金」は「LED灯導入補助制度」によりLED化された街路灯が、更新時期を迎えており、今まで補助率が10分の1、上限額が5千円でしたが、これを1万円に拡充し、4月から運用を開始しました。
- 仕組みとしては、補助率を10分の1から10分の8に上げ、合わせて上限額を5千円から1万円に増額しています。単純に街路灯を更新する場合、安い街路灯が約1万2千円程であり、補助率を10分の8にすることで、負担が極めて少なくなります。
- 今まで、1万2千円の街路灯を更新する場合、1,200円の補助でしたが、今後は（税を含むと）1万円の補助になります。このように、街路灯の更新が速やかに進むよう負担軽減を進めて行きます。
- もう一つは、「地区会館維持費」の拡充についてです。地区会館は現在37会館あり、この指定管理費を増額します。
- 増額金額は、1館あたり、5万円から20万円程度で、会館によって異なります。
- 指定管理費と利用料金だけでは赤字となる実体を踏まえ、維持費を増額し、町内会の方が活動しやすいよう対応します。

3 姉妹都市提携60周年記念「鳥取・湯沢を知ろう！絵手紙コンテスト」について

- 姉妹都市の提携60周年記念「鳥取・湯沢を知ろう！絵手紙コンテスト」についてです。
- 令和5年10月4日に鳥取市、並びに湯沢市と姉妹都市を提携して60年を迎えます。

- この交流は、次の世代・若い世代が姉妹都市に関心を持ち、知ってもらうことが重要であることから、絵手紙のコンテストを実施するものです。
- 市内在住の小学校4年生から6年生を対象として、姉妹都市について調べて、絵手紙を書いていただくものです。4月10日(月)から5月19日(金)が募集期間となっており、学校に作品を提出していただくという形になっております。
- 6月上旬に開催する釧路市姉妹都市協議会の総会で審査を行い、鳥取賞を1名、湯沢賞を1名、姉妹都市賞として10名を決定します。商品としては、鳥取賞・湯沢賞は、それぞれの姉妹都市への旅行に親子ペアで招待するというものであり、姉妹都市賞の10名については、両姉妹都市の特産品の詰め合わせをプレゼントします。その他、応募者全員に記念品もあります。
- 鳥取賞・湯沢賞については、その作品を広報くしろ10月号で紹介する予定になっており、併せて、10月に開催されます「くしろ大漁どんぱく」のステージで姉妹都市旅行の感想を発表してもらう予定になっています。
- 改めて若い世代に、姉妹都市の関係といったことを知っていただいて、様々な交流のきっかけとなればと考えているところです。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・姉妹都市60周年ということで、コンテストを実施するとのことですが、この他に何かイベントを企画していますか。また、60周年を迎える10月4日に式典を予定していますか。

(市長)

- ・式典は予定していません。
それぞれのイベントに合わせて、訪問団による相互訪問を行います。鳥取市は8月13日からの「鳥取しゃんしゃん祭」に参加させていただきます。湯沢市は来年2月の「犬っこ祭り」時に訪問します。鳥取市、湯沢市からは10月の「釧路大漁どんぱく」に来ていただきます。このように、それぞれのイベントで幅広く市民の方に60周年を伝えていきます。また、50周年でも行いましたが、子供たちへの取組として、学校給食でそれぞれの地域の特産品や郷土料理を使った特別メニューを提供します。

(市民協働推進課長)

- ・その他、それぞれの市の広報紙で姉妹都市に関する特集記事を掲載いたします。また、詳細は決まっていますが、図書館で各市の文学の紹介や姉妹都市60周年を記念した展示を検討しています。
- ・鳥取市への訪問の際には、釧路市の「釧路鳥取傘踊り保存会」が「鳥取しゃんしゃん祭」に参加することで調整しています。鳥取市も釧路市を訪問する際に傘踊りの団体が同行する予定となっています。

(市長)

- ・鳥取市、湯沢市と話をしながら進めており、今回は50周年で実施した市民訪問団は予定しておりません。

(質問)

- ・訪問団は行政関係の方たちになりますか。

(市民協働推進課長)

- ・市や議会をはじめとする公式訪問団の相互訪問を予定しています。

(質問)

- ・地区会館の維持費の拡充について、光熱水費の高騰という視点もありますか。

(市長)

- ・もちろん踏まえております。その中で赤字という状況があり、町内会が負担しているという現実がありますので、そこを解消していくものです。また、利用も減少しているところ
です。

(質問)

- ・地区会館の赤字について、何館が赤字となっていますか。

(市民生活課長)

- ・十数館程度は赤字となっています。正確な数字は後ほどお伝えします。ここ数年は、コロナでかなり厳しくなったという傾向はありますが、それ以前からも指定管理費だけでは赤字となっている会館もありました。

(質問)

- ・拡充は今回限りではなく、今後も継続されるものですか。

(市長)

- ・その通りです。

(質問)

- ・街灯の整備と地区会館の維持費を今回拡充されることで、地域活動だけではなく、防災の視点で避難時に活用できる側面もあると思いますがいかがですか。

(市長)

- ・防災の観点は様々なところを考えていかなければならないことから、関連してくるものと言えませんが、街路灯については、町内会の視点から見ていただいた方が適切だと思っています。防犯灯は町内会がどこに設置していくかを検討し、設置してきたものであります。過去の経過として、かつては市が電気代などを100%負担していましたが、町内の方々にも負担していただく形となりました。その中でLED化については、町内会の負担を軽減する形で進めてきましたが、維持していくには大変な状況というものがありません。街路灯の電気代の補助はありますものの、今回の更新についてももしっかり対応していきながら、町内会との関係性を良いものとして行きたいと考えています。

(質問)

- ・都心部まちづくり計画について、国交省が調査費を計上したということで事業が進むと思いますが、市長の受け止めをお聞かせください。

(市長)

- ・今回調査費を採択いただいたことについては、大きな一歩を踏み出したと思っています。今までの取組に対して大きな成果になると考えています。この調査が事業採択とイコールではないということは案内のとおりですが、間違いなく国の採択が見えてきたところです。防災の観点もありますが、新たなまちづくりについての進め方、考え方に評価いただいたと考えております。

(質問)

- ・国交省に確認したところ、調査費がついて事業化に至らなかったケースは稀だということです。市として調査費がついたことでイコール事業化となるのか、調査結果を踏まえて判断していくのかどちらになりますか。

(市長)

- ・調査結果の数値は大事ではありますが、街の将来に向けて必要かどうかが一番重要だと思っており、そこが始まりだと思っています。必要な事に対しては、それをどのように成し得るのかを考えるべきであり、数字によりやる、やらないを決めることは論理として違うと考えています。将来的にこの街に必要なことかどうかの観点でこれまで話をしてきましたし、そのうえで、現実的な数字が出て来ますけれども、それに対しては様々な知恵を絞りながら進めていくことが必要だと思っておりますので、この調査費の採択は極めて大

きな第一歩だと思っています。

(質問)

- ・今回の調査は判断材料という認識ですか。

(市長)

- ・我々が進めてきたことに対し、国が採択してくれたということです。我々のまちづくりの取組に対し、鉄道高架の調査費を計上していただいたという意義が大きな第一歩だと考えております。

(質問)

- ・事業の必要性について、市民理解が欠かせないと思いますが、今後どのように市民理解を進めていきますか。

(市長)

- ・考え方をいろいろな場面で説明しながら進めていこうと思っています。市民説明会や報告会での市民の声は非常に重要と思っていますとともに、市民の定義も重要だという話をさせていただきました。今いる人たちだけが市民なのかというと、今はないがこの街を築いてきた人たちも思いがあるでしょうし、これからこの街に産まれてくる市民もいます。そこをしっかりと考えて市民のご理解を進めていき、決定していくことが必要だと思っています。将来の街をどのようにして子供たちに引き継いでいけばいいのか、今までの街がどのように出来てきたのかを踏まえて進めていくことが重要だと思っています。単に計画がいいか悪いかという話ではなく、考え方が重要だと思っていますので、ここが国に採択された意味合いのひとつに入っていると思っています。

(質問)

- ・具体的にワークショップ等計画されていると思いますが、改めてこのように進めていきたいということはあるですか。

(市長)

- ・わかりやすいのは具体論だと思いますが、一番重要なのは考え方だと思っています。その点で今まで車中心のまちづくりを人中心にしていきたいと思いますと一貫して話をしてきました。ただその中でもワークショップの中で具体的な話をしていかなければならないと思っています。この中で皆さんと議論をし、わかりやすく伝わっていくものと思っています。

(質問)

- ・公開されたパースの中に拠点となるような民間施設もありました。事業の効果にどれだけの民間の出店が見込まれるかということもあると思いますが、現時点で感触がいいところや前向きな所はありますか。

(市長)

- ・動き出してから様々動きが出てくるものと思っています。調査が採択されたことで、可能性が高まってきたところです。これから動き出す中で、提案などが出てくるものと思っています。

(質問)

- ・市立病院の新棟建設事業について、実施設計と建設を担う事業者が決まったかと思っています。今年度から本格的に始まると思いますが、前回計画がとん挫したという背景があり、不安に思う市民もいらっしゃると思います。実施設計が始まるにあたり、どのような姿勢で進めていくか説明いただきたい。

(市長)

- ・医療は地域にとってなくてはならないものです。また、市立病院は地方センター病院であり高度医療となっています。釧路根室管内含め、ドクターヘリでは十勝、オホーツクの一部も入っていますことから、しっかりと機能を持つことが必要であります。そこでこの計

画を進めていったところではありますが、想定外な状況になったところでもあります。しかしながら、今回優先交渉権者が決定したところであり、やっと前に進めると安堵しているところです。機能をこの地域として保っていくために必要な新棟建設でありますので、しっかりと打ち合わせをしながら、前に確実に進めていきたいと考えています。

(質問)

- ・当初の計画では2年前に完成しており、結果6年ほど完成が遅れていますが、その中で医療機器が老朽化しているという話も聞こえています。計画の遅延で受けている影響で何か把握されていることはありますか。

(市長)

- ・時間が経てばどのようなものも古くなりますが、機能としては問題ないと聞いております。やはり機能が一番重要でありますので、しっかり確保できていると伺っております。その点については病院長含め先生方に感謝しています。あとはこの計画をしっかりと前に進めていくことが重要だと思っています。実際問題として稼働しながらの工事となってきますので、機能を最優先しながら進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・事業費について、以前より100億円以上膨らんでおり、背景はどのような状況になりますか。

(市長)

- ・様々な資材が上がっていることもあり、人件費も上がってきています。これはどうしようもない話でありますので、どの様な手法を取って進めていくのかということになります。今回デザインビルドという形で行い、機能を確保するためにどのような手法で行うのかを現実に行っている様々な事例を活用しながら行っていくものですので、物価高騰、人件費高騰の中でより効率的な手法の建設計画になると考えています。

(質問)

- ・3月31日で支所が廃止になり、支所の跡地について建設などの用途はついていないと思いますが、解体や再利用など現時点で予定していることはありますか。

(市長)

- ・まだ具体的な検討までいっておりません。春採は単独の建物ですが、桜ヶ岡は地区会館と併設、大楽毛は合築となっておりますので、しっかりと検討していかなければならないと思っています。

(質問)

- ・市は空き家問題を抱えていて、示しがつかない部分もあり、いつまでも放っておくわけにはいかないと思いますが、いつまでに用途を付けるという考えはお持ちですか。

(市長)

- ・空き家の問題は管理の問題だと思っています。適切な管理が重要と考えていますので、当然のこととして適切に管理を行っていきます。あわせて、行政が考える部分と民間から話があるケースもあると思いますので、若干時間がかかると考えています。現時点ではいつまでに用途をというところまで至っておりません。

(質問)

- ・2月末についに釧路市の人口が16万人を割り込みましたが、市長の受け止めに聞かせてください。

(市長)

- ・人口減少には、自然減と社会減があります。人口減少自体が大きな課題ではありますが、我々地方自治体を考えたとき、構造的な問題として社会減に対し、どの様に進めていくかを

考える必要があります。自然減は国の問題であり、社会減が地方都市の問題であります。若い世代の転出超過を問題視していく中で、転出を減少させる取組を考えたとき、経済の活性化や雇用になりますので、地域の会社の情報を若い世代に提供していく取組を行っています。また、社会減についてはピーク時より減少してきましたが、自然減が大きくなっているという実態があり、少子化に何とか対応していければと思っていますところ。少子化の場合、データとして示されているのが、結婚年齢が上がっていることと結婚する方が減っていることであり、将来展望や所得が大きな割合を占めています。この地域の将来展望を築きながら、所得をしっかりと確保できるような環境づくりを行っていくことが、結婚に結びつき少子化対策に通じるものと思っています。そういった中で「まちづくり基本構想」にも掲げておりますが、雇用という経済を軸とした取組をしっかりと進めていくことが重要だと思っています。

(質問)

- ・公立大学について、4月から独立行政法人になったことで、今後の期待をお聞かせください。

(市長)

- ・釧路市も都市経営という言い方をしておりますが、資源や財産を活かし持続的な発展を目指しながら、まちづくりを進めています。公立大学も同様であり、この独立行政法人化はプラス成長を続けていく経営という観点を持ちながらスタートしたところです。小路学長と名塚理事長を中心にいろいろな取組がなされていくものと思っており、大変期待をしております。私も事務組合の管理者ですので、このいろいろな取組を支えていきたいと思っております。